

調査結果

里山の生きもの

植物 **ウツボグサ**

2007年度



2012年度



ウツボグサは、平地から山地にかけての広い範囲で生育が確認されていましたが、2012年度以降は平地での記録はほとんどありません。

2023年度も、山地での報告がほとんどで、特に豊科・堀金・三郷の平地では、報告がありませんでした。ウツボグサの生育に適した場所が特に平地で減少している可能性があります。

2018年度



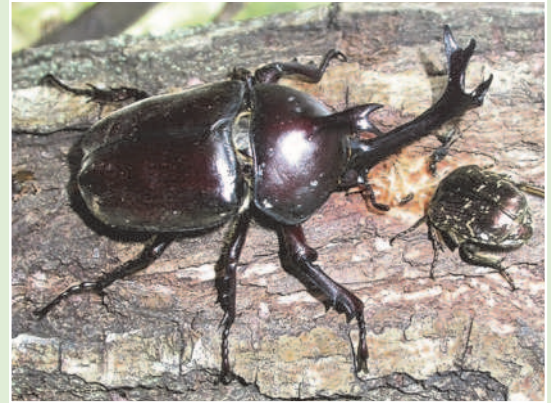
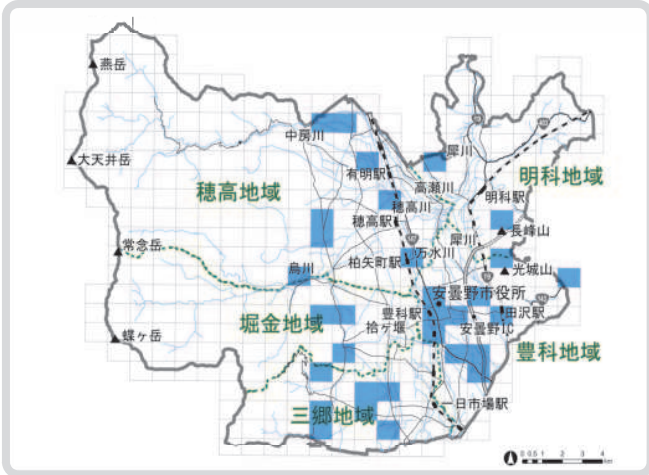
2023年度



調査結果

里山の生きもの 昆虫類 カブトムシ

2007年度



カブトムシは、平地から山麓部の広い範囲で生息が確認されていますが、2007年度以降は平地での確認場所が減少傾向にあります。2023年度は、過去の調査と比べて確認地点数はさらに減少しました。減少している地域では、カブトムシが好む樹液を出す広葉樹の林が減少している可能性があります。

2012年度



2018年度



2023年度



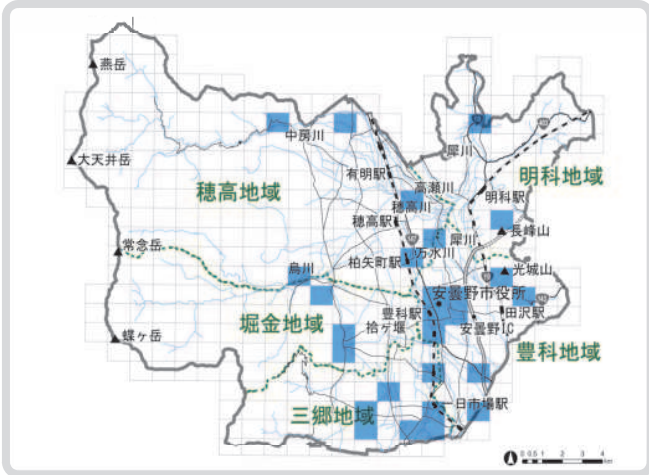
調査結果

里山の生きもの

昆虫類

ヒグラシ

2007年度



2012年度



ヒグラシは、平地から山地の広い範囲で生息が確認されていますが、平地の確認は減少傾向がみられ、2023年度は過去の調査よりもさらに確認地点数が減少しました。平地ではヒグラシの生息に適した林や屋敷林が減少している可能性があります。

2018年度



2023年度



調査結果

里山の生きもの
昆虫類 **ミヤマクワガタ**

2012年度



ミヤマクワガタは、2012年度は確認情報がなかったものの、2018年度は山麓部から山地にかけて広く生息が確認されました。

2023年度は、確認された場所に大きな変化はありませんが、確認地点数はやや減少しています。

ミヤマクワガタは昆虫採集の対象として子どもたちに人気が高い種です。これからも子どもたちが昆虫に親しめるよう必要以上に採集しないことが重要です。

2018年度



2023年度



第4回 安曇野生きもの調査 2023

調査結果

里山の生きもの

鳥類 ヨタカ

2007年度



2012年度



ヨタカは、主に西部の山麓部から山地にかけて生息が確認されていますが、確認例数は少なく、2023年度は、穂高地域の山地において3例の報告がありました。森林の伐採地や若い植林地に営巣する種です。市内ではマツ枯れの対応もあり、森林の伐採が行われている場所も多くなっていることから、今後の生息動向について継続して見守っていくことが望まれます。

2018年度



2023年度



調査結果

里山の生きもの

鳥類 **アオバズク**

2012年度



アオバズクは、2012年度以降、平地の寺社林などで継続して生息が確認されており、2023年度は、豊科地域の神社で確認がありました。

主に、巣を造る樹洞があるケヤキなどの大きな広葉樹がある社寺林や屋敷林を好むとされており、樹洞がある大きな木を大切にすることが望まれます。

2018年度



2023年度



第4回 安曇野生きもの調査 2023

調査結果

里山の生きもの

哺乳類

ノウサギ

2012年度



ノウサギは、2012年度から調査されており、2023年度は、過去の調査と同様に、穂高・明科地域の山地の一部で生息が確認されました。

開けた草地や山地内の森林伐採地などを好むため、森林整備が進むことで生息適地が拡がり、個体数が増加する可能性があります。

2018年度



2023年度



第4回 安曇野生きもの調査 2023

調査結果

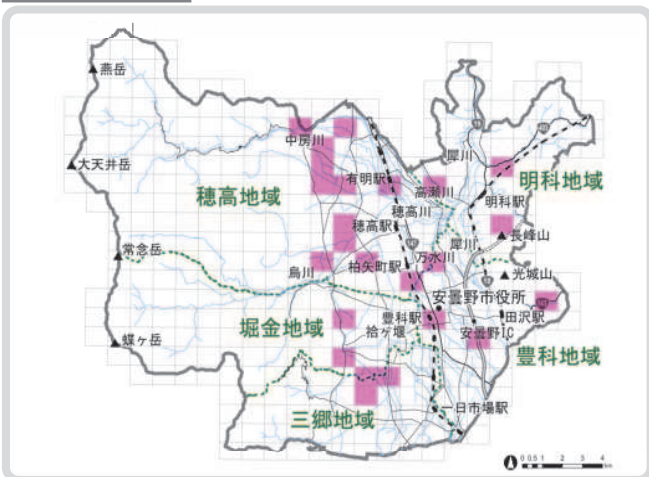
里山の生きもの 哺乳類 ホンドギツネ

2007年度

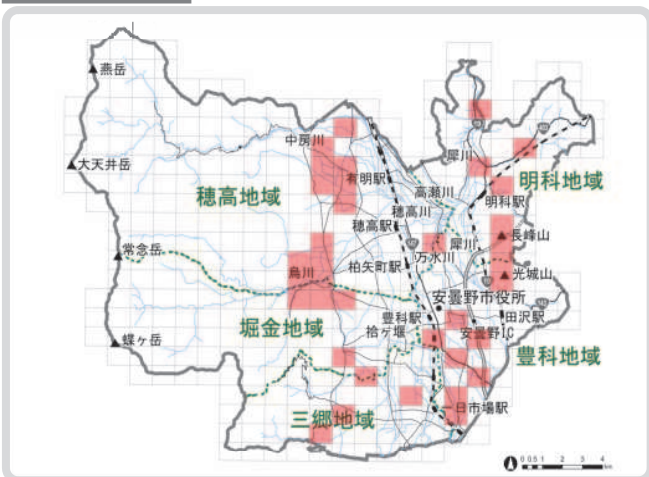


ホンドギツネは、過去の調査で、市内の平地や山地で広く生息が確認されてきましたが、2023年度は、三郷や豊科地域で確認情報が大幅に減少し、分布状況が変化している可能性があります。キツネは、開けた耕作地周辺にも生息するために、住宅地の増加など土地利用の変化に影響を受けると考えられます。

2012年度



2018年度



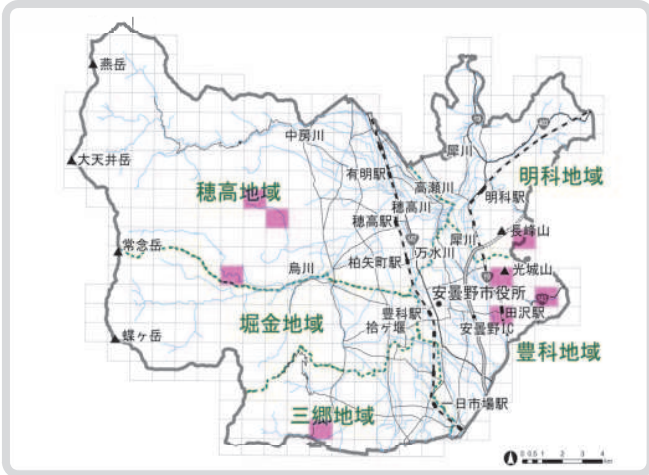
2023年度



調査結果

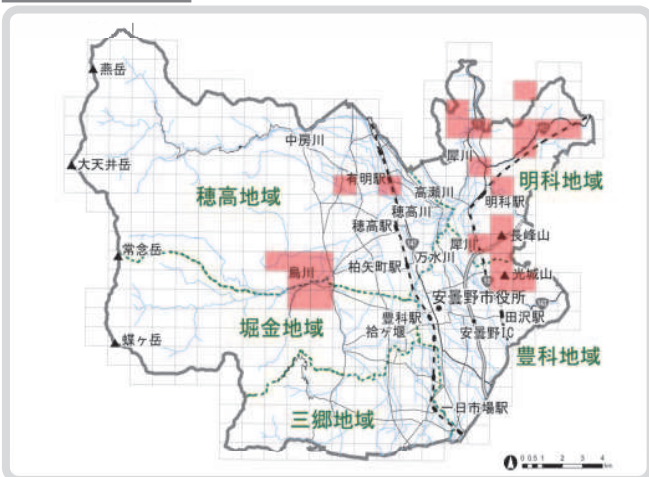
里山の生きもの 哺乳類 ニホンジカ

2012年度



ニホンジカは、豊科・穂高・明科地域の山地などで生息が確認されています。2023年度は、2018年度よりも確認地点数は減少していますが、引き続き多数の個体が市内に広く生息していると思われます。ニホンジカの増加は、植生の衰退を招き、他の生物への影響も大きいので、生息状況のモニタリングや捕獲対策などが重要になります。

2018年度



2023年度



第4回 安曇野生きもの調査 2023

調査結果

里山の生きもの 哺乳類 ニホンカモシカ

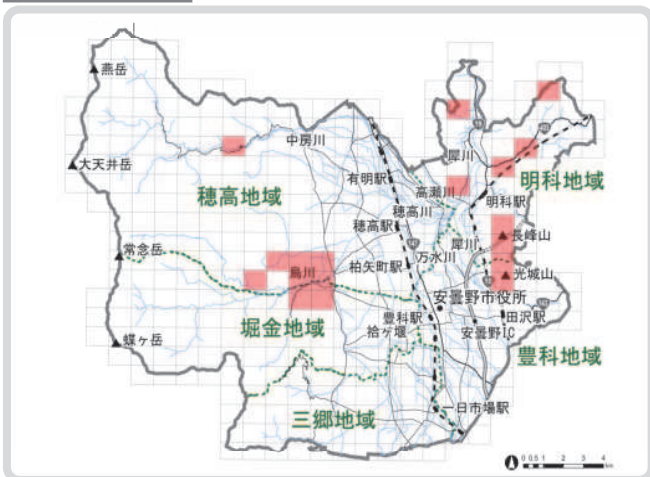
2012年度



ニホンカモシカは、市内の山地で生息が確認されています。

2023年度は、穂高・堀金・三郷地域で確認の報告がありました。2018年度までは報告があった、明科・豊科地域では報告がありませんでした。市内の山地ではニホンカモシカの生息数が増加し、林床の植生が衰退することでカモシカの生息適地が減少している可能性があります。今後、継続して生息状況を見守っていくことが望まれます。

2018年度



2023年度

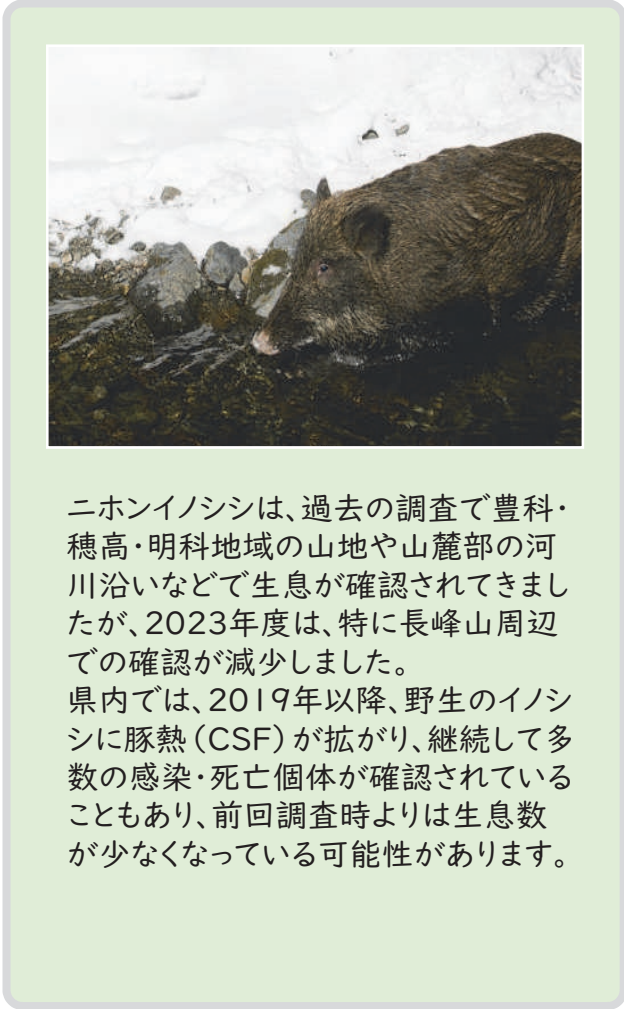


第4回 安曇野生きもの調査 2023

調査結果

里山の生きもの 哺乳類 ニホンイノシシ

2012年度



ニホンイノシシは、過去の調査で豊科・穂高・明科地域の山地や山麓部の河川沿いなどで生息が確認されてきましたが、2023年度は、特に長峰山周辺での確認が減少しました。県内では、2019年以降、野生のイノシシに豚熱(CSF)が拡がり、継続して多数の感染・死亡個体が確認されていることもあり、前回調査時よりは生息数が少なくなっている可能性があります。

2018年度



2023年度



第4回 安曇野生きもの調査 2023

調査結果

里山の生きもの 昆虫類 アカボシゴマダラ

2023年度



アカボシゴマダラは、オオムラサキと同じエノキを食樹とする外来種で、特定外来生物に指定されています。2023年度の調査で、穂高・堀金地域の山麓部で生息が確認されました。現時点では分布は限定的ですが、今後の分布拡大に注意が必要です。

里山の生きもの 昆虫類 ヤママユ

2023年度

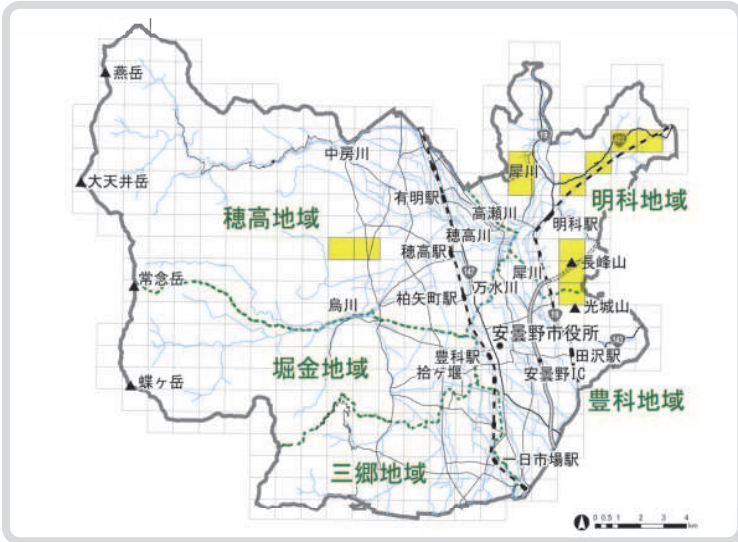


ヤママユは、クヌギの葉を食樹(幼虫の主食)としており、市の伝統産業で使用される天蚕の繭をつくる種としても知られています。2023年度の調査では、クヌギの林が残る明科地域と穂高地域で生息が確認されました。

調査結果

里山の生きもの 昆虫類 ナナフシモドキ

2023年度



ナナフシモドキは、以前は市内での生息確認はありませんでした。しかし、2017年に明科地域で大量発生して以降、三郷地域でも生息が確認されていました。2023年度の調査では、豊科地域や穂高地域でも生息が確認されました。

里山の生きもの 鳥類 フクロウ

2023年度



フクロウは、豊科、穂高、明科地域のそれぞれ複数地点で生息が確認されました。フクロウは大きな木にできるうろ（樹洞）を使って繁殖しますが、樹洞ができるような木がある林は最近少なくなっており、フクロウの暮らしにも影響が出ている可能性があります。

調査結果

里山の生きもの 鳥類 ガビチョウ

2023年度



ガビチョウは、在来の鳥類と生息環境が競合することから、特定外来生物に指定されています。2023年度の調査では、市内の山林や河川敷などで確認されました。現時点では市の東側に分布が集中していますが、今後の変化に注意が必要です。